

第 9 3 0 回

定例教育委員会会議録

日 時 令和 6 年 8 月 2 8 日 (水) 1 5 : 0 0 ~

場 所 益田市立保健センター 大ホール

益田市教育委員会

第930回 教育委員会定例会

招集年月日 令和6年8月28日（水） 15:00～

招集場所 益田市立保健センター 大ホール

議事日程

第1 会議録の承認について

第2 教育長報告

第3 議題

議第14号 令和7年度から使用する中学校教科用図書の採択について

議第15号 益田市立小中学校管理規則の一部を改正する規則の制定について

報第31号 令和6年度(令和5年度事業分)益田市教育委員会点検評価報告書
について

報第32号 益田市立戸田小学校の移転・改修について

報第33号 「令和6年度全国学力・学習状況調査の結果」について

報第34号 「夏休み！算数・数学パワーアップ教室」の開催状況について

報第35号 秦佐八郎博士の胸像等の寄贈について

報第36号 「ひとが育ち輝くまち益田 夏フェス」開催報告（速報）につい
て

第4 その他

(1) 情報提供

(2) その他

出席者

教育委員会

教 育 長	領 家 芳 明
教 育 委 員	大 庭 隆 志
教 育 委 員	齋 藤 哲 瑯
教 育 委 員	原 田 笑
教 育 委 員	山 本 ひとみ

事務局職員

教 育 部 長	長 嶺 勝 良
教 育 総 務 課 長	齋 藤 勝 義
学 校 教 育 課 長	田 原 正 紀
協働のひとづくり推進課長	岡 崎 健 次
文化 振 興 課 長	田 中 一 史
学 校 教 育 課 参 事	杉 原 貴 宏
美 都 分 室 長	澄 川 武 寿
匹 見 分 室 長	齋 藤 一 臣
教 育 総 務 課 長 補 佐	植 田 拓 也

領家教育長 　　ただいまから令和6年度第930回益田市教育委員会定例会を開催いたします。

　　議事に入らせていただく前に、本日の会議の進行についてですが、前回の定例会と同様の進め方をさせていただきます。予定している議事案件のうち、議第14号令和7年度から使用する中学校教科用図書の採択についてを最初の議題とし、その性質上、非公開の形式でご審議いただきたいと思います。地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7項の規定により、出席者の3分の2以上の多数で議決した場合は非公開で進めることができる旨規定をされております。本議案を非公開の形式で審議いただくことにご異議ありませんでしょうか。

教育委員 　　＝全員了承＝

第1 会議録の承認

領家教育長 　　これより公開の会議とさせていただきます。

　　前回の定例会の会議録につきましては、先ほどご承認いただきました。

第2 教育長報告

領家教育長 　　続いて、議事日程第2、教育長報告に移らせていただきます。資料をご覧ください。

　　この間、私が参加いたしましたものにつきまして、皆さん方に4点ほどご紹介させていただこうと思っています。

　　まず、7月30日、萩・石見空港で令和6年度ふれあいサマーキャンプin益田歓迎式というものに参加してまいりました。ご案内のように、益田市は川崎市と姉妹都市交流しておりまして、平成20年度からサマーキャンプというような形で受入れを続けております。多分今年で15回目になると思うんですが、既に益田市にきてくれた子どもたちが300人を超えている、そんな状況です。それから併せて、大人になって、再度益田を訪れている子どもたちもいるように聞いています。

　　今年度は、川崎市の姉妹都市、東北のほうから益田まで4つあるのですが、その中でのサマーキャンプがそれぞれ開かれておりまして、益田市には小・中学生合わせて22名、引率の方々が6名、計28名をお招きいたしました。2泊3日の予定で土田海岸、それから夜は石見神楽の鑑賞、匹見町に参りまして高津川で

アユをつかみ取りし、そのアユと一緒に焼いて食べたり、万葉公園で竹細工や流しそうめんをしまして、最後はブドウ狩りをして、そんな楽しい2泊3日を過ごしたようです。歓迎式では石見神楽の面を隠しておりまして、それを出して驚かせたようなこともございました。ちょうどその夜に二川の宿泊施設で石見神楽を実際に鑑賞して、これもまた子どもたちの思い出に残ったというようなことも行いました。最終日、帰るときに市長がお見送りの式に行ったんですけど、3日間とても楽しかったという子どもの声をたくさん聞けたということで、本当にいい交流になったんじゃないかなと思っていますところでは。

それから、8月6日と9日には今年で4年目になる算数・数学パワーアップ教室に参加してきました。6日はグラントワで、9日は匹見下公民館での実施でした。詳しくはこの後、杉原室長のほうから報告があると思いますが、年々参加者が増えているということです。私は午前中、グラントワのスタジオ1に行き、小学生の様子を見ましたけれども、100名を超える参加者が大学生の方々と算数問題ウォークラリーに挑戦したり、大学生が作ってきた問題を一生懸命解いたりしていました。5年生もまだ習っていないところを6年生に聞いたり大学生に聞いたりというような交流も生まれたり、本当にいい交流になったなと思います。また、よく聞いていると、去年来た大学生に憧れていて、今年もあの人に教えてもらいたいというような女の子たちもいたりしました。それから、今年は産業支援センターが益田出身者の大学生に呼びかけていて、山口大学の子が1人来てくれていたんですが、その子が吉田小学校の卒業生だったんです。ちょうど私が赴任していたときに6年生で、その子がもう20歳になって手を挙げて来たんですよとってうれしそうに話してくれた姿を見て、こんなことが続いていくっていうのはいい往還になるんだなというようなことも感じた時間でした。

それから、8月7日には市の人権・同和教育の研修会に参加しました。これは実は、令和4年に市内の小学校で文書配布事案がございました。そのときにこの理由について協議した中で、人権課題が多様化してきており、色々な人権課題に関わりを持っていかないといけないということもあり、同和教育に対する子どもたちの学習だとか教職員の研修機会が残念ながら少しずつ減っているんじゃないだろうかというようなご指摘も受けたことを踏まえて、昨年度から実施している研修です。参加者は、益田市で初めて教職員になられた方、それから今年市役所の職員になられた

方、他市町村から異動してこられた方、それから希望される方等で、昨年は100名ぐらいでしたが、今年は140名を超える方々が参加されました。講師には、これまで市内で一生懸命活動してこられた方をお招きして、益田市が続けてきた同和教育、人権教育のあゆみについて、過去の歴史を振り返りながらお話をいただいたり、そしてその中で行われている差別の仕組み、からくり、いじめ問題なんかなにも関わる仕組みなども説明していただきました。また、それぞれ自分なりに人権・同和问题にどんなふうに関わっていくのか、どんな行動を起こすのか、そんなことを問うような研修も併せてしていただきました。参加者の感想を読んでいると、年に1度、いやそれ以上にこうした取組を引き続き繰り返すことで自分がしなければいけないこと、子どもたちに向かうときに注意すべきことなどを考えさせられた、というような感想や、益田市の人権・同和教育の歴史を再確認し、これまでの先人の方々、大庭委員さんも一生懸命やってくださっています、そんな方たちの思いに触れたというような感想もいただいております。

最後、4つ目は8月10日、ひとが育ち輝くまち益田夏フェスに参加してまいりました。教育委員さん方にも参加していただいてどんな様子かというのは見ていただいたと思いますけど、これまで3月に実施していたものを初めて夏にチャレンジしました。いろんな施策の中でコーナーがあったんですが、岡崎課長と一緒にひとつづくり施策プレーというのをやらせていただき、数日前に岡崎課長からデータをいただき、どんなことをしゃべるかという知恵を授けていただきながら関わりました。当日講師として来られた岡山県の真庭市の図書館館長をしておられる西川さんやその真庭市の教育委員会の職員さんたちも我々のブースに来られているいろんなことを聞いてくださったり、また、愛媛県の西条市のおやじの会からPTA活動された方が教育委員までやられ、そして今は引退しながらいろんなアドバイザーをしておられる方や大分県の日出町の方などいろんな方々と交流を持った中で、「益田市っていろんな活動をやっておられますね、この原動力って何ですか」と聞かれて、「職員と人の力です」と答えるなどしていい交流の場になったり、逆にご参加してくださった方に意見をいただきながら、課題に気づいたりというようなよい夏フェスになったと感じるとともに、これからも続けられるようにしてまいりたいというふうに思っているところでございます。

この間の公務につきまして4点を中心に説明させていただきます

した。私のほうからの報告は以上です。

この件についてよろしいでしょうか。

教育委員
領家教育長

=全員了承=

寄附、寄贈につきましては、8月はございませんでした。

第3 議題

議第15号 益田市立小中学校管理規則の一部を改正する規則の制定について

領家教育長

続きまして議事日程第3に移らせていただきます。

本日の議題ですが、既に1件議事案件につきまして非公開形式で行いましたので、残る議事案件が1件、報告が6件となります。

それでは、議第15号益田市立小中学校管理規則の一部を改正する規則の制定について事務局より説明を求めます。

田原課長

それでは、私から益田市立小中学校管理規則の一部を改正する規則につきましてご説明いたします。

お手元の資料をご覧ください。

今回の管理規則の一部改正につきましては、令和6年3月29日付で島根県のほうから通知がございまして、その通知に基づいて管理規則を改正するものでございます。

主な改正理由、改正内容といたしましては大きく3点ございまして、まず1点目は感染症等による出席停止に係る条文の改正でございまして、こちらについては、学校保健安全法施行令第6条に合わせて修正するものでございまして、保護者に対する感染症の通知書を廃止したということでございます。

続いて、2点目は学校事務職員の職の新設ということで新たに事務専門幹という職の新設に伴う改正でございます。理由といたしましては、定年引上げ制度の導入に当たりまして事務リーダーで60歳の年度末を迎える事務職員の定年引上げ後の職名を一律に事務専門幹ということに変更するというのと併せて、それに伴う職務内容についても改めまして、それを職務として示すものでございます。

最後に3点目ですけれども、この間、学校の事務職員の標準的な職務につきましては島根県のほうで規則の中で定めておりましたけれども、島根県のほうがこれを3月29日で廃止をいたしましたので、それに伴って事務職員の標準的な職務については服務監督権者である市町村の教育委員会が定めるというふうに改正されましたので、それに伴って本市の管理規則のほうに変更を加えるも

のでございます。

簡単でございますけども、以上でございます。

領家教育長

ありがとうございました。

先ほどの説明の中で、課長が島根県の規則と申しましたけど、正式には通知文として市町村通知が出てきておりますので、その訂正をさせていただきます。

それでは、ただいま説明した件につきましてご質問等がございましたらお願いいたします。

原田委員

第15条の感染症に係る文章なんですけど、内容どうこうではなくてこの表現の方法が気になります。「感染症にかかっており、かかっている疑いがあり、またはかかるおそれのある」ところを例えば「感染症への感染、感染疑い、または感染のおそれのある」などという、もうちょっとすっきり分かりやすい表現にされたほうがいいのではないかなと思いました。「かかっており、かかっている疑いがあり」という2点目のつなぎ方が、何か語弊があるのではないかと思いました。少し脱線しますが、表現方法が気になりました。

田原課長

ここの書き方につきましては、島根県のほうからこういう形だというふうに例示があったということと、あと具体的な言い回しや点の打ち方等につきましては、市の法務担当の部署のほうで確認をいただいておりますので、このような内容でお示しをさせていただいているところでございます。法務上のルールにのっとった記載の仕方になっているというふうに認識をしております。

原田委員

分かりました。

領家教育長

それでは、採決に移りたいと思います。本件の改正につきまして賛成の方は挙手をお願いいたします。

教育委員

=全員挙手=

領家教育長

挙手全員です。本件は承認されました。では、事務局は必要な手続を進めてください。

報第31号 令和6年度(令和5年度事業分)益田市教育委員会点検評価報告書について

領家教育長

続きまして、報告案件に参ります。

報第31号令和6年度(令和5年度事業分)益田市教育委員会点検評価報告書について事務局より説明を求めます。

齋藤課長

それでは、資料に基づきまして令和6年度(令和5年度事業分)の益田市教育委員会点検評価報告書についてご説明をさせて

いただきたいと思います。

もう既に7月11日に臨時教育委員会を開催しまして、詳細に関しましてのご説明を行い、皆様方からご指摘等をいただきましたので、その後修正したものを簡単にご説明させていただければと思います。

各委員さんのほうにいただきました案件に関しましては、修正し、その後外部評価委員会のほうに諮っております。外部評価委員会は4名の学識経験者等により組織しております。1回目を7月23日、2回目を8月21日、2回にわたりましていろいろとご指摘等をいただきながら、この点検評価報告書、また別紙になります。令和5年度の点検評価シート、6年度の目標が立ててあります。点検評価のシート、こちらのほうに反映をしていくという状況です。外部評価委員会の中におきましては、各委員さんのほうから各課が上げた目標と、また評価の内容等に関しまして46の指摘、また確認というところでご意見をいただいたところです。それらにつきましても丁寧に整理いたしまして、今回取りまとめたという状況でございます。点検評価報告書のほうに関しましては、細かい文章の整理、またつなぎ、そして意味等も一般の市民の方にも分かるようにという指摘等をいただきながら整理をして今回取りまとめたという状況でございます。さらに、外部評価委員会の中では、過去の事後評価を振り返るということも必要だとありましたので、過去4年分を振り返りました。今までは進捗率、達成率等で評価をしていましたが、今年度につきましては、もっと皆さん方に分かりやすいような評価に切り替えている状況にあります。そういったところもご確認いただきながら整理をしてきたという状況でございます。

今後については、本日ご確認いただきました後に庁内の会議に諮り、その後9月2日から開会いたします市議会定例会、総務文教委員会にてご説明し、その後は市のホームページにこの内容の掲載をしてみたいというところでございます。

説明は簡単ですが、以上です。

領家教育長

ありがとうございました。

この件について、皆さん方ご質問等ありましたらお願いいたします。

山本委員

先ほど過去4年間の実績を踏まえて文言等修正しましたと説明があったと思いますが、例えばどこをどういうふうな形で修正されたのでしょうか。

齋藤課長

4年間の評価が、きちんとした根拠に基づいて評価されている

かどうかというところを振り返ったということです。それぞれの年度で個々の事業内容に基づいて自己目標を掲げています。また、評価の基準としては先ほど言いましたように今年は進捗率、達成率と分けていません。基本的には概要としての自己評価をしております。それまでについては進捗率、達成率というふうに分けて評価をしていたという状況がありましたので、おそらく評価の結果と概要というところにはA、B、C、Dという記載がありますけども、きちんと整理がされているかどうかとか、その評価の基準というものはどうだったのかというところの質問がありましたので、過去4年間のその評価と概要を資料としてお出しして、そういったところの確認をいただいたというところでございます。文章そのものには反映しているわけではないです。

山本委員
齋藤課長

そうなのですね。

はい。評価の概要というのが過去4年間分の中でどこの位置にあるかというところを説明したところですよ。もともと最初のころにつきましては、A評価、B評価が多く、それが今C評価が出てきていて、その、評価をするときの基準や概要というのはどうだったか確認がしたいというご意見がありまして、資料を出してご説明をしたという状況です。

山本委員
齋藤課長

それが評価に反映されているということですか。

今回は今回として評価の中で整理をしていますけど、評価基準としては今回の基準に基づいてそれぞれの各課の自己評価をもらっているという状況です。

山本委員

来年以降、そういったようなものは資料として出していただけるということですか。前回の臨時教育委員会のときにはそういった資料はなかったような気がしたのですが。

齋藤課長

こちらにつきましては、外部評価委員会の中において今までの評価がどうであったのかどうか確認したいというご意見があったので、これは別冊子として委員さんに確認いただくためにお出しした資料ということになります。通常でいくと点検評価報告書と、それと5年度の振り返りの点検評価、それから6年度の目標とかというところでの一式の流れになっているので、この資料を追加するというものではありません。年度を区切られた点検評価ですので、振り返るといえるのはその都度前年との比較ということになるんですが、あくまで外部評価の中で過去の評価について確認したいというご意見だったのでお出ししたという状況でございます。

領家教育長

山本委員としては教育委員会に案を出すときには、そういった

資料も含めて提示していただいで検討したいということでしょうか。

山本委員 はい。せっかくいい資料がありますのでぜひ資料として出していただければと思います。

領家教育長 来年以降資料として提出していただいたらいいのではないかと
いうご提案と思いますが、よろしいですか。

齋藤課長 すみません。私の解釈がちょっと甘かったかなと思っておりま
す。来年以降のところでお出しする参考資料としてということ
であれば、提出していきたいというふうに思います。

領家教育長 じゃあ、よろしくお願いいたします。

そのほかよろしいでしょうか。

教育委員 ＝全員了承＝

報第32号 益田市立戸田小学校の移転・改修について

領家教育長 では続きまして、報第32号益田市立戸田小学校の移転・改修
についてお願いいたします。

齋藤課長 引き続きでございます。戸田小学校の移転・改修に関しまして
というところで、資料に基づきご説明をさせていただきたいと思
います。

前回の定例の委員会のところでも事前に口頭でご報告をさせて
いただきましたが、改めまして資料に基づいてのご説明をさせて
いただければと思っております。

それでは、まず1番目の戸田小学校の小野中学校校舎への移
転・改修というところでございます。

背景といたしましてこちらに掲載をしておりますが、まず令和
2年に作成をいたしました益田市の学校施設整備計画の中に耐震
性のない戸田小学校の管理棟の耐震化というものを盛り込みまし
て管理計画をこれまで進めてきたというところでございます。

併せまして、2点目としましてですが、今回、今年度でござい
ますけども、5月に確認書の締結を行いました小野中学校の学校
再編、こちらが令和8年4月に実施という流れになっておりま
す。この中学校の学校再編という背景がある中で、小野中学校の
校舎は比較的新しい校舎ですので、今後の児童の学校環境、また
地域の皆さんに余裕教室等を地域の交流スペースとして活用いた
だくというところも考えながら、最終的に小野中学校の校舎を改
修し、戸田小学校を現在の小野中学校校舎へ移転させるという考
え方になったということでございます。まとめた考え方として

は、令和8年度からの現在の中学校校舎における戸田小学校運営に向けて、令和6年度に実施設計を行いまして、令和7年、8年の2か年にわたって移転・改修を進めるという状況でございます。どちらも年度におきましては校舎内に児童・生徒がいるということを踏まえた、学習環境に配慮した工事の実施を心がけてまいりたいと思っております。

続いて、2番目になります。

小野中学校校舎の改修というところでございます。こちらに関しましては、事前に中学校の校長、また小学校の校長と校舎のほうの確認をいたしました。その中で先ほど言った後の改修のポイントというところを3点にまとめたところでございます。

まず、1点目でございます。

中学校基準から小学校基準への改修というところなんです。例えば管理教室棟等にありますが手洗い場、これ中学校基準になっておりますので、少し高いところに設置されています。こういったよく使う手洗い場の高さを調整するなどの措置を加えていきたいというところがございます。続いて、屋内運動場の小学校基準への改修というところなんです。例えばそこにありますとおり、バスケットゴール等につきましても中学校の高さに設定をされています。やはり授業で使うことを考えまして、小学校基準への改修が必要だということを確認したところでございます。

続いて、2点目です。

トイレの洋式化及び多機能トイレの新設とあります。現時点、中学校ではトイレの改修等は行っておりません。ほかの学校と同じように洋式化の部分、それから衛生機能に対する改修を行ってまいりたいというところなんです。併せまして、いろんな多機能トイレという、広いところが大体どこでもありますけど、いろんな機能を有したトイレの設置も、限りある敷地ではありますけども、新設をしてまいりたいと考えています。

3点目に参ります。

幾ら建築年が浅いとはいえ、やはり施設というものは海に近いところにありますので、どうしても老朽化、ある意味劣化というところがありました。そういった意味合いで施設の長寿命化に向けた雨漏り、また外壁の劣化、そういったものに対する予防改修を進めてまいります。

この3点、ポイントを踏まえて改修を行ってまいりたいというところでございます。

3番目です。改修に係るスケジュール（案）のところなんです。

この工事につきましては、実施設計に係る補正予算等を提出しまして実施してまいりたいと思います。この実施設計を含めまして540日、約3年間で予定しております。改修に係る財源というところでは、できるだけ国庫補助というところも含めて、活用できる財源は有効に活用してまいりたいと考えています。令和6年度に実施設計、そして令和7年、8年につきましては改修工事に取り組むというところでは、やはり小学校基準の改修を中心とした環境整備、そして教室棟のトイレの改修工事を行ってまいります。併せて長寿命化というところで、まずは屋上防水の改修を行う予定にしています。令和8年度ですが、先ほどもありました長寿命化というところの観点で外壁のリフレッシュを中心とした工事ということと、また体育館はやはり避難所というところもありますので、体育館のトイレの改修工事に取り組む計画で進めてまいりたいと思います。

その他というところでは、

既に7月29日、それから8月6日に、地元の説明は実施をしております。おおむね了解をいただく中で、先般委員会の調査会のほうでも報告をさせていただいたという状況がございます。工事の施工に当たってというところでは、児童・生徒の安全、これを第一というところを考えまして、学校、学習環境に配慮した工事、これを進めながら車両等の敷地の出入りなど、安全対策に十分に気をつけ、また保護者の方、近隣の方にも事前に周知を十分に行いながら進めてまいりたいというふうに思っております。

説明は以上となります。

領家教育長
山本委員

ご質問等ありましたら伺いますが、いかがでしょうか。

小学校の移転については、まずは新しい施設の改修が大事だと思いますが、一方で現戸田小学校の活用ということについても地元と話をしているのでしょうか。

齋藤課長

地元説明の中でも、そこら辺はどうなのかという問い合わせがありました。もちろんこの後活用に関しましては今検討しているところでありますし、また地元の方のほうからもそういった活用に関するご意見等々も多々ありますので、今後いろんな協議を進めながら話を前に進めてまいりたいと思っております。

領家教育長
教育委員

この件についてよろしいでしょうか。

=全員了承=

領家教育長

では、報第33号「令和6年度全国学力・学習状況調査の結果」について説明をお願いします。

杉原参事

それでは、令和6年4月18日に行われました全国学力・学習状況調査の益田市の結果の概要について報告をいたします。

対象は、小学校の6年生と中学校3年生です。小学校6年生は、国語科と算数科、それと意識調査、それから中学校3年生は、国語科と数学科、それと意識調査を行っています。

それでは、資料の3ページ、4ページ、5ページ、6ページが各教科の結果の概要になっておりますので、ご覧ください。

本年度益田市の平均正答率というところと全国との差というところがございますけれども、市と全国との差はマイナス6ポイントからマイナス4ポイントの差という結果でありました。それから、県におきましてはマイナス4ポイントからマイナス1ポイントの差ということになっております。ただ、国語、算数、数学、それぞれ問題数が14問から16問ということですので、大体1問当たり6.25ポイントから7.14ポイントということがございますので、先ほど全国の4ポイントから6ポイントの差ということはほぼ1問弱の差ということになっております。6ポイントとかかなり差が開いているというように見えますけれども、この1問をしっかりと解き切るところが課題になっているのかなと思っております。それから、昨年度と児童・生徒が違いますけれども、比較をいたしますと、小学校6年生の国語科が昨年はマイナス6ポイントの差だったのが今年はマイナス5ポイント、6年生の算数がマイナス8ポイントの差がマイナス6ポイント、それから中学3年生の国語が昨年はマイナス5ポイントの差がマイナス4ポイント、中学3年生数学では昨年のマイナス9ポイントがマイナス5ポイントと、いずれも差が縮んでいるということでございますので、少しばかりは学力の育成が図られているのではないかと思っております。ただ、まだ厳しいところもありますので、これからも学力の育成を図っていかなければいけないと思っております。国語、算数、数学、それぞれですが、例年どおりやはり国語ですといろんな資料から読み取ったことをある条件下で自分の考え述べるというような問題、それから算数、数学に関しては国語と同じように式と言葉で説明をするというところ、それから中学生になると証明とかそういったところにやはり弱みがあるということでございます。顕著に課題が見られた問題とか無解答が多かった問題は、具体的な問題をお配りしております。また、それで説明をさせていただきたいと思っております。

それでは、7ページ、8ページのところ、意識調査のところを載っております。

3番、話し合う活動を通してというところ、それから4番の課題解決に向けて、それから5番の国語の授業はよく分かる、6番の算数・数学の授業はよく分かる、この4つの意識調査の質問に関しましては、学科の平均正答率と相関関係が強く見られるものになっております。全国とか県に比べますとまだ肯定的な回答を述べている児童生徒の割合は少し低いところもございますが、昨年度と比べると算数・数学の授業はよく分かると答えた割合は中学校3年生以外のところは少し上がっているというところで、授業改善のところは少しずつ進んでいるのではないかなと考えています。

それでは次、お手元に配った右肩が止めてある何枚かつづりの問題をご覧ください。

一番上のページにありますのが、これは小学校6年生の国語の課題になります。右が高山さんの文章で、真ん中辺り、四角くあります。ここに入ると思う文章を左側の条件に合わせて書く課題です。たてわり遊びのよさについて考えたことを書く。高山さんの取材メモの下級生に聞いたことから分かることを読み取る。60字以上100字以内でまとめて書く。この条件全てを整えて書くことと正答ということになります。問題別の解答類例みたいなものを見ますと、高山さんの取材メモの、下級生に聞いたことから言葉や文を取り上げてというのは、これは下に書いてありますので、これを取り上げて60字以上100字以内にまとめて書いている児童がおりますけれども、もう一つの条件、たてわり遊びのよさについてというところがうまく表記できていないという児童が多かったということもございます。

それでは、ちょっと1枚めくっていただきまして、今度は6年生の算数の問題であります。2問ございますが、2つとも速さに関わる問題であります。左側の問題は、1人は折れ曲がっていない直線だったりするんですけど、同じ1, 200メートルをかなたさんは20分間かかる、ほのかさんは24分間かかって歩いたということです。どちらのほうが速いですか。1と2を選んでその説明を書きなさいというところがございます。これも1か2を選ぶというところはできていたけれども、その番号を選んだわけというところがなかなか表記できなかったということと、あとぱっと見ただ目で折れ曲がっているから、真っすぐだからという解答も少し見られたというところがございます。

それから、右側の問題です。たけるさんが自転車で家から図書館まで1,000メートルを5分間で進みますという問題なんです。ですが、途中で郵便ポストを挟んでいて、郵便ポストまで600メートル、郵便ポストから図書館まで400メートル、ということで、純粹に1,000メートルを5分だと問われれば大体のお子さんが答えを書けるんですけど、この間に挟むということで、中には分速200メートルと分速200メートルを合わせて分速400メートルと解いている児童もかなりいたという結果になりますので、速さの計算はできるけれども、意味とかというところの理解というところはしっかりまだ落ちていないかなというところがございます。

それから、次めくっていただきまして今度は中学校3年生の国語の問題です。フィルターバブル現象、いわゆる野球をよく検索する人は野球の情報をAIが選んでどんどん自分のほうに出してくれるというのがフィルターバブル現象でございますが、これのいい点と悪い点というのを話し合っている様子だったりとか、これを基に自分が今度は本を選ぶ際にどのようなことを気をつけるか、藤田さんと山岡さんといろんな子どもさんがおられるんですが、この人たちが言っているものを取り上げながら自分の本の選び方を考えて書きなさいというような問題になっています。これもやっぱり色々な資料の中から選んで書いて自分の考えを述べるというところでやや誤答があったり無解答が多いということが見られました。

めくっていただきまして、次が中学校3年生の数学の問題です。これは三角形の頂点3つに3つ数字を入れます。その間の辺のところには四角があって、この四角は頂点2つを足した答え、例えば1と2だったら間は3、2と4だったら6という数字が入ります。頂点を3つ足したもの、それから辺の3つを足したものの関係は、辺の3つを足したものが頂点を3つ足したものの2倍になるということを、 $(a+b)$ というのがありますが、これらを使って説明をきなさいという問題です。これもやはり式と言葉で説明をするというところで、無解答というところが多かった問題になります。

それから、最後のページになりますけども、これは三角形の証明の問題になります。A、Bの線の間をCという点が動いてAC、CBをそれぞれ一辺とする正三角形があって、その正三角形AからBの間もCは動いていますけど、すると正三角形がいろいろな形になるんですが、その間に常にAQイコールBPになると

いうことを証明しなさいということで、三角形QACと三角形PBCが合同になるということを証明して解きなさいということでございますが、これもやはり無解答が3割ぐらいあったという状況になります。これが益田市、全国的にもあるんですけども、そういったところが苦手に行っている問題ということでございます。

今、各学校に結果が届いておまして、各校で問題を全職員に解いてもらって学校独自の分析をお願いしております。分析しただけではなくてその改善策みたいなところを各学校で考えていただき、提出を求めています。今回、国語、算数、数学の2教科だけでございますけれども、それぞれの課題点の改善策ということもあります。それだけではなく、小学校6年、中学校3年以外の学年だったり他の教科にも生かせるといったことがあるのではということも学校に依頼しており、8月30日を締切りにして意見を集めていくというところでございます。

それから併せて、指導改善というところでは、総合教育会議でもお話をさせていただきましたが、気づきと対話のある授業づくりを進めるということで授業改善を図っていくということでございます。

長くなりましたが、学力調査の結果概要は以上です。

領家教育長

ありがとうございました。

ただいまの説明についてご質問等がございましたら伺いますが、いかがでしょうか。

大庭委員

この報告書の3ページ、6年生の国語のところ。後の算数、それから中学校のほうも関係するんですけども、教科総合、各内容はそれぞれポイントの表があります。その下に市平均正答率は63%であり、全国よりも5ポイント下回っているという表現があると思いますが、市の平均正答率は63%、つまり100分率で表しています。それから、市と全国を比べて引き算をしたときにいわゆるその差が5ポイントという形でポイントで表しています。ところが、その下の表、無解答が多かった設問とその無解答率と全国との差というところがありますが、【高山さんの文章】のところ16ポイント、それから差がマイナス3ポイントという表記をしていますけれども、無解答率ということになりますと、16ポイントという言い方ではなくて、16%だと思います。その下の17ポイントも17%ということで、全国とそれから益田市の比較をして引き算をしたときに差がやはりポイントという形で表していると思います。それがここだけではなくて、後

の6年生の算数や中学校の数学、国語、数学でも同じように表現しています。ここはポイントで表すのではなくて、無解答率についてはパーセントで表し、それから益田市と全国との差の部分についてはポイントという形で表す形が正しいのではないかなと思っています。率という言い方になりましたらパーセントで表す必要があるのではないかと思いますので、そこを改めていただきたいということが一点あります。

それから、無解答が多かった設問とその無解答率と全国との差という欄がありますけども、小学校6年の算数なんですけれども、これは2か所あったようですけども、いわゆる6ポイント、つまり6%と、それから15ポイント、15%だと思います。ほかの6年生の国語とか中学校の国語、それから数学については10%以上のものを無解答が多かった設問として記載していると思うんですけれども、なぜここには6%のものが第1項目に上がっているのでしょうか。先ほどの説明ですと大体1問違うだけで4%ぐらいの違いとおっしゃっていました。そうすると6%というのはそんなに違いはないと思います。1.5問ぐらいでしょうか。ですから、この小学校の算数についての2つある項目の上の項目は6ポイントと、マイナス3ポイントとして記載していますけれども、この6ポイントの分は無解答率が高かったと私は思えないです。ですから、ここについてはどうかなということを少し思いましたので、また検討のほうをお願いしたいなと思います。

杉原参事

大庭委員のご指摘のとおりでございまして、両方ともポイントを使ってありますが、最初は無解答率ということでございますので、パーセントの表示に変えさせていただきたいと思います。

また、小学校6年生の算数のところも、それ以外のところが大体10ポイント、10%以上の差ということでございますので、こちらのほうは削除させていただこうと思います。ありがとうございました。

大庭委員

それから、最後にですけども、中学校の数学ですね。中学3年生の数学、これにつきましてはかなりやっぱり無解答率が高かったなということが分かります。これは感想になりますけども、中学3年生の数学がかなり無解答率が高くて多い、その結果やはり教科総合の平均正答率が最も低いということが分かるんですけども、それに併せて、意識調査の8ページの(6)数学、算数の授業はよく分かるという部分で、やはり中学3年生については無解答率の多さに示されているように、数学の授業がよく分からない、そういう実態が本当に分かるなと思っています。

以上です。

領家教育長

ありがとうございます。

その件についてはよろしいですか。

杉原参事

ご指摘のとおりだと思っております。今後とも授業改善というところで子どもたちが静かに聞いているだけではなくて、自分で考えをしっかりと伝えるということが無解答がなくなることにもつながると考えておりますので、引き続き授業改善を図ってまいります。ありがとうございました。

領家教育長

そのほかいかがでしょうか。

原田委員

私も1つ意見をお伝えしたいんですけれども、9ページ目の平日の家庭学習時間について全国との差が激しいということと、去年から水準が全く変わっていなかったり、小学6年生に関しては減っているというこの現状をすごく危機感を抱いています。これについて、学校もそうですけれども、各家庭でももう少し危機感を持ってもらえるように何か保護者の方にこの状況をお伝えする機会、今年のような状況を把握していただける機会がもう少しあればいいなと思います。

以上です。

杉原参事

校長会を通してこの結果概要をお伝えして、各校の取組は各校の分析に併せ進めていくということにしておりますけれども、保護者へのお知らせ等そういったところについては今具体的な方法はまだございません。今後、何か考えていきたいと思っております。

領家教育長

そのほかいかがでしょうか。

齋藤委員

各教科、それから日常生活の状況を見ても20%前後ぐらいが否定的に答えています。7ページを見ると、「学校に行くのが楽しいか」という問いに対して、小学校6年生で77%が「楽しい」と答えています。と言うことは、20数%は楽しくないということです。また、中学校3年生でも20%前後ぐらいは「楽しくない」と回答しています。なぜ「学校に行くことが楽しくないのか」、教育委員会はその背景をつかんでいないのではないのでしょうか。ここには、学校だけではなく家庭の問題も考えられますし、先生との関係や友達関係、授業が分からないなど、色々な要因があると思われれます。その辺りをしっかりと把握する必要があるのではないのでしょうか。前々から話をしていますがこれらの調査結果を基にして、委員会としての方向性を示していくことが求められているのです。

今、説明のあったように、ただ全国平均と比べて益田で何%上

がった、下がっただけではあまり意味がありませんね。そして、具体的によく分かりません。少し時間をかけて我々教育委員会としても考えていかなければいけない問題ではないかと思えます。

山本委員

今、原田委員さん、齋藤委員さんが言われたように、この調査を毎年され、丁寧に集計して分析しておられていますが、これの活用の実態というのを教えていただきたいなと思えます。おそらくいろんな方面で活用しておられると思えますし、保護者への説明もある程度しておられるのではないかと思うのですが、そういったところの実態はどうでしょうか。

杉原参事

益田市の概況みたいところを先ほど言ったように校長会で報告というところはさせていただいています。あとはホームページでも上げているというところがございます。広く学校以外のところで多くというところは今現在のところではできていないところがございます、学校での取組みみたいところをしっかりとやっていただくというところを頑張っているというところが今の現状かなと思っております。

山本委員

保護者の方に危機感を持っていただくとか実態を知ってもらおうというのはこれからの課題だと思いますので、一緒に考えてみたらいいかなと思えます。

領家教育長

ありがとうございます。

私も実際にやっていたときには、できなかった問題を保護者の方にもお示ししながら子どもと一緒にやらせませんかみたいな言葉かけをしてお願いをしたこともあります。そうすると子どもたちの反応とか保護者の皆さんのご意見もたくさん伺ったりして、学校の弱点とか、逆に頑張っているところとか、そういうものがまた家族での会話につながるみたいなことがありました。それぞれの学校で実情に応じて市の分析をしていただいたものをベースにしながらお伝えしているという現状がありますが、教育行政としてどう取り組むかという辺りは今後宿題にしながら、委員さんたちのお考えもお伺いしながらそれぞれの形で、学校だけに任せるわけではなくて色々なことを取り組んでいければと思いますので、また事務局のほうへ検討のほうも併せてお願いできればというふうに思います。

そのほかいかがでしょうか。

齋藤委員

山本委員のご意見に追加したいのですが、子どもたちが悩んだり困ったりしたときに相談する相手が、身近にはいない状況にあると考えられます。ある調査によると3割近くの子どもの先生に相談できないと答えています。そして親を悲しませたくないとい

う気持ちもあって、親にも相談できません。恥ずかしさなどから友達にも相談できません。四面楚歌の状況に置かれているというのが、今の子ども達の現状だと思います。そういう背景などを考えながら、もう少しこのデータを詳しく分析するなどしてはいかがでしょうか。

子ども達の悩みなどは、複雑に絡み合ってきているので、もはや、家庭、学校だけで個別に解決することはほとんど不可能に近い状況です。そのため、他行政、福祉関係、医療機関などと幅広く連携・協力し検討していくことを、真剣に考えていかなくてはいけないと思います。

領家教育長
教育委員

ありがとうございました。そのほかよろしいでしょうか。
＝全員了承＝

報第34号 「夏休み！算数・数学パワーアップ教室」の開催状況について

領家教育長

では続いて、報第34号に移らせていただきます。

「夏休み！算数・数学パワーアップ教室」の開催状況について事務局から説明をお願いします。

杉原参事

先ほど教育長さんからもお話がありましたけれども、毎年行っております夏休みの算数・数学パワーアップ教室の報告をしたいと思います。

本年度は8月5日から9日までの5日間開催いたしました。全ての中学校区で開催するということを目指しておりましたが、まだ匹見地区でできておりませんでしたので、本年度は匹見地区で行って来ました。初めの3日間はグラントワ会場で、残りの2日間は匹見下公民館のほうで開催しました。例年市民学習センターの多目的ホールで行っておりますけれども、今回小・中学生のうち、小学生の申込みが合計が101でございまして、ちょっと多目的ホールではなかなかできにくいということで、今回グラントワのほうをお借りして開催いたしました。

参加者ですが、今回島根大学の学生が13名、そのうちのリピーターが半分近くで6名いました。それから、今回松江工業高等専門学校がまだ授業中ということでございましたので、声をかけられなかったもので、島根県立大学のほうに声をかけたところ2名の方が参加してくださいました。それから、産業支援センターの地域支援プログラムとして益田市以外の大学、市外、県外に行っている学生にお声がけしたところ、2名参加していただきまして計17名の講師が参加してくださいました。

小・中学生のほうですが、先ほどもありましたように小学生が101人、中学生29名で合わせて130名の参加がありました。各会場の延べ人数のほうはこのようになっております。ただ、匹見下公民で初日15名の参加で、本来2日目小学生5名だけの参加ということでしたけども、1日目がとても楽しかったということで2日目も飛び入りで参加したいということでプラス5名、合わせて25名参加ということになっております。

活動内容については後ほどお知らせをいたします。

5番のところでアンケートのほうでございます。

今回、肯定的な評価は85%を超えるというところで、ある程度評価をしていただいているかなと思っております。ただ、参加する前よりも算数、数学が好きになった、難しい問題にもチャレンジしたい気持ちが強くなった、それから算数、数学の問題を解くのが楽しかったというところが中学生が86%というところになっておまして、これを答えた生徒を見ると大体参加のきっかけが親の勧めということで、どちらかというと自主的に来たというよりは親に行けと言われて来たというお子さんで、そういう子たちにももう少し楽しかったなという思いを持たせるような活動をしたくないかなというふうに考えております。

次のページのところが活動の予定になっております。

匹見の会場は両日とも午前中の開催にして、初日の8月8日の午後は小・中学生と大学生が一緒に匹見の川で川遊びをしたりとかアユのつかみ取りをしたり、匹見の温泉に入ったり、アユの塩焼きを食べたりということをしました。それから夜は満天の星空を眺め、大学生がとても感動して楽しかったと言って帰っておいりました。次の日も川に入らせてくれ、入らせてくれという学生もいるぐらいとっても楽しかったということで好評でございました。

算数・数学パワーアップ教室の報告は以上です。

ただいまの件につきましてご質問等ありましたら伺います。

参加者が大変多くて本当にいいなと思います。

1点だけ。参加のきっかけの中で学校の勧めという欄がありますけども、小学生は6名、中学は0名です。もう少し学校の働きかけがあってもいいんじゃないかなという気がしております。前回も同じようなことを言ったと思うんですけども、例えばこういった算数・数学パワーアップだけではなくて、いわゆる小・中・高の連携関係で東高辺りでありますああいった学習にも、やはり学校の勧めで参加しているというようなことを言っている子ども

領家教育長
大庭委員

が少なかつたように思います。もう少し学校から積極的にプッシュするというようなことがあればなどいいなと思います。やっぱり学校の勧めがゼロというのは非常に寂しいという気がします。最低でも1名以上、学校の勧めで参加しているというのが欲しいなと思いますので、ぜひ学校に対してもう少し働きかけをしてもらえたらいいなと思います。よろしくお願いします。

原田委員 私も前回同じようなことを申し上げたかもしれないんですけども、算数・数学パワーアップ教室はもう次の段階にステップアップをしていってもいいのかなと思います。アンケートというのは、このアンケートに示されている内容のみ聞かれたんでしょうか。それとも、それにプラスアルファで感想とか課題というのでも調査されているんでしょうか。

杉原参事 これ以外のところで数リピックに参加したいということをお問うている質問が1点ございます。

原田委員 でしたら、今後はぜひ実際に大学生の方に益田の子どもに対する感想ですとか、課題を感じているところですか、今後力を入れていったほうが良いと思うところですか、接して感じられたことなどを調査していただきたいですし、その内容を踏まえて次に生かしていただきたいと思います。

杉原参事 大学生の先ほどのアンケートについては資料にある通りなんですけど、自由記述の欄で子どもたちのよかった点と悪かった点というところを記入していただいているところがございまして、大学生の気づきをたくさん書いていただいておりますので、次回はそちらの自由記述欄も反映して報告させていただこうと思います。

領家教育長 そのほかよろしいでしょうか。

教育委員 =全員了承=

報第35号 秦佐八郎博士の胸像等の寄贈について

領家教育長 では、次に移らせていただきます。

報第35号秦佐八郎博士の胸像等の寄贈について、事務局は説明をお願いします。

田中課長 私のほうからは、秦佐八郎博士の胸像等の寄贈についてのご報告をさせていただきます。

寄贈者につきましては、秦宏樹氏ということで秦さんの実際のお孫さんに当たられる方です。寄贈資料名としましては、佐八郎の胸像とそれからエールリッヒ博士の油絵ということになってお

ります。次のページに写真を載せております。胸像と絵画のほうになっております。次に経緯です。5月にNPO-MASUDAを通じまして秦宏樹氏から寄贈の申出があるということをお聞きしまして、4月に寄贈を受けるといことにしました。申出の理由でありますけども、胸像のほうにつきましては、生前秦佐八郎本人が還暦のお祝いということで門下生のみんなから送られたものということになっております。絵のほうは、詳しくは分かりませんが、ドイツから帰国する際に送られたものというふうにお聞きしてございます。絵画、胸像ともに大変貴重なものと考えられますので、今後この功績を次世代に継承していく資料として活用が見込まれるために寄贈を受けております。

今後の予定につきましては、もう一枚ありますけども、日本医学の挑戦者たちということでふれあいホールみとのほうで展示しておりますけれども、改めて歴史文化交流センターれきしーなの方で8月28日から9月9日の間のところで展示のほうを併せてやっていきたいということにしております。それから胸像につきましては市役所の本館の1階の入り口付近のほうで展示、絵画については直射日光に当たるとよくないので、秦記念館のほうへ展示するということにしております。よかったですぜひともれきしーなの方へ行って、今後の意見いただけたらというふうに思っています。

領家教育長

ありがとうございました。

このことについてご質問等ありましたら伺いますが、よろしいでしょうか。

教育委員

=全員了承=

報第36号 「ひとが育ち輝くまち益田 夏フェス」開催報告（速報）について

領家教育長

では続きまして、報第36号「ひとが育ち輝くまち益田 夏フェス」開催報告（速報）について事務局は説明をお願いします。

岡崎課長

先般ひとが育ち輝くまち益田夏フェスを開催しました。グラントワに会場を変更し、時期も変えて開催したところですけども、大きな目的の変更としては、今まではどちらかというと専門的な方たちが多くいらっしやって、県外の方も多くいらっしやったんですが、今回からのコンセプトとしてはより多くの方に市の施策を知っていただくということを目的にしたところです。その結果、来場者としましては280名、3月のときで287名ですので大体同じなんですけど、市内の参加者のほうが前回から増えた

ということで、多少ではありますが入りやすさもあったり、市民の方に周知されたのはあったかなと思っております。とは言いつつも、県外の方も101名いらっしゃっておりますので、リピーターの方が多かったんですが、そういった根強い益田のこういった取組を学びに来ようという方も一定程度やはりいらっしゃるということです。現在詳しいアンケートの集計中にはありますが、また結果、内容等が分かりましたら改めてご報告させていただきますが、やはり肯定的な意見というか対話を中心としたこの取組であるとかすごく評価をされておりました。1点課題かなと思ったのが、やはりブースが点在しておりましたので大ホールや楽屋等を使いながらやったという点でちょっと分かりにくい点があったという意見がありました。個別の意見としては教育長に実際に直接施策のことを話していただいたりしたので、とてもよかったですというような意見もありましたので、やはりこういった取組をしっかりと伝えていくことも引き続きやっていきたいと思っております。今後も工夫しながら継続的に開催をしていきたいというふうに思っているところです。以上です。

領家教育長

ありがとうございます。

このことにつきましてご質問等ありましたら伺いますが、よろしいでしょうか。

教育委員

=全員了承=

領家教育長

それでは、本日予定しておりました議事全てが終了いたしました。以上をもちまして第930回益田市教育委員会定例会を終了させていただきます。

本日はありがとうございました。

=終了時間 16時45分=